

はじめに

ロックによる人づくり

21世紀、わたし達は激動の時代を生きています。

米ソ冷戦の終結によって、アメリカ一極集中の体制が確立されるかと思いきや、世界は地域紛争とテロの時代へと突入していきます。

日本においても第二次世界大戦後の復興から高度成長、バブル経済とその崩壊、そして史上最大の人口自然減など、大きなターニングポイントを迎えているといえるでしょう。

そんな時代を常に彩ってきたのが、ロック音楽でありました。

1950年代に誕生したロックは、わたし達の文化において重要な位置を占めてきました。アメリカのテレビ/ラジオ・パーソナリティー、ディック・クラークは「音楽は人生のサウンドトラック」と語りましたが、ロックは当初のエンタテインメントとしての本質を維持しながら社会へのメッセージを持ち備えるようになり、1970年代のブロックバスター化、1980年代のMTV革命によって、わたし達の日常に浸透してきました。

わたし達の住む世界には、各世紀ごとに、時代を導くコンビが存在してきました。

た。

18世紀はジョージ・ワシントン&トーマス・ジェファソンに代表される「政治の世紀」でした。一方、19世紀はカール・マルクス&フリードリヒ・エンゲルスに代表される「思想の世紀」ということが出来ます。

そして20世紀は、ジョン・レノン&ポール・マッカートニーに代表される「文化の世紀」だったと定義できるでしょう。

今やロックは娯楽の域を超えて、時代を担う重要な存在であります。現代において、ロックは人間を育成し、教育する義務を持っているのです。

半世紀以上の蓄積を経たロックには、かきりない叡智があります。わたし達もまた、その叡智を学び、次の時代へと生かし続けなければなりません。

わたしは本書において、「ロックによる人づくり」を提唱したいと考えております。

もちろん、ロックの原点であるイエーとかベイバーとか、殺せ！とか燃やせ！などの要素は非常に重要であります。しかし、そのような享樂的な側面だけでなく、ロックはわたし達をより人間として豊かにしてくれる存在なのです。本書が皆さんの人生をより豊かなものにする一助になることを願ってやみません。

2015年2月

山崎智之

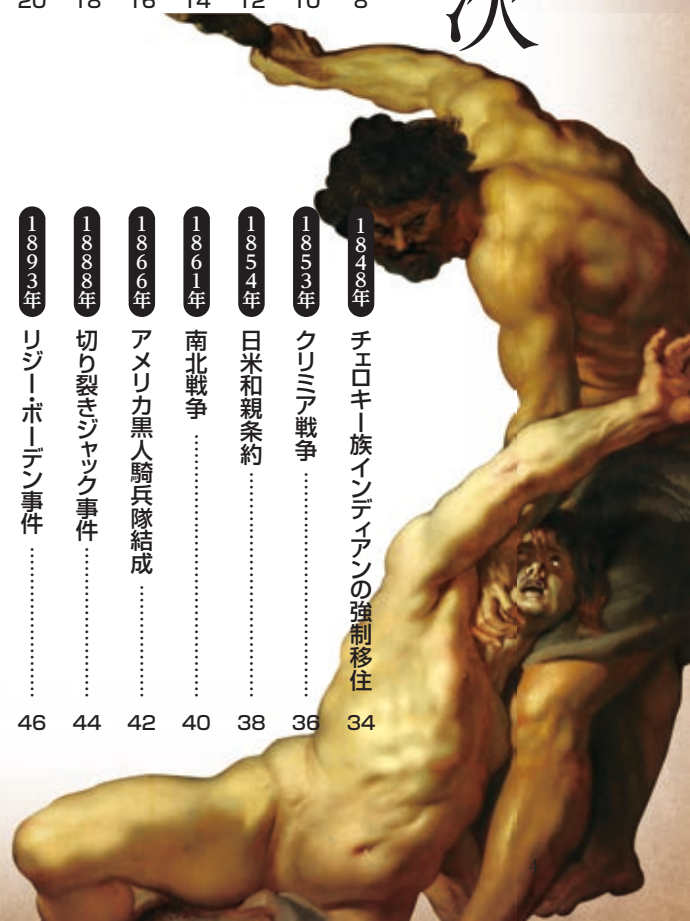
ロックで学ぶ世界史 目次

33年	イエスキリスト磔刑	8
793年	ヴァイキング時代の始まり	10
1206年	ジンギスカン、モンゴル帝国創設	12
1431年	ジャンヌ・ダルク火刑	14
1480年	スペイン異端審問	16
1614年	エルゼベト・バトリ死亡	18
1620年	ピルグリムファーザーのアメリカ上陸	20
1644年	イギリス／アメリカの魔女狩り	22
1789年	フランス革命	24
1815年	ワテルローの合戦	26
1839年	クーパーズタウンで野球発明	28
1845年	アイルランド大飢饉	30
1846年	ドナー隊遭難事件	32

1848年	チエロキー族インディアンの強制移住	34
1853年	クリミア戦争	36
1854年	日米和親条約	38
1861年	南北戦争	40
1866年	アメリカ黒人騎兵隊結成	42
1888年	切り裂きジャック事件	44
1893年	リジー・ボードン事件	46
1895年	スタガー・リー・シエルトン事件	48
1900年	ケイシー・ジョーンズ事件	50
1903年	ヴァージニア州列車事故	52
1910年	殺人医師クリッペン事件	54
1911年	トライアングルシャツウエスト工場火災	56
1912年	タイタニック号沈没	58

1914年	第二次世界大戦勃発	60
1915年	アルメニア人虐殺	62
1916年	怪僧ラスプーチン暗殺	64
1927年	ミシシッピ河の大洪水	66
1929年	世界大恐慌発生	68
1930年	霧社事件	70
1931年	ダスト・ボウル	72
1933年	石井731部隊の前身、関東軍防疫部設立	74
1936年	スペイン内戦	76
1937年	南京大虐殺	78
1943年	アウシュヴィッツ収容所の人体実験	80
1945年	原爆投下	82
1947年	ブラックタリア殺人事件	84
1952年	水素爆弾の開発	86
1953年	ボートン・ダウン生物化学兵器研究施設	88
1957年	スプートニク打ち上げ	90

1959年	チベット民衆武装蜂起	92
1960年	ボトム湖殺人事件	94
1960年	ベトナム戦争	96
1963年	フィルビー事件	98
1963年	ハッティ・キャロル殺人事件	100
1963年	吉展ちゃん事件	102
1963年	メドガー・エヴァース殺害	104
1963年	イギリス沼地殺人事件	106
1963年	ジョン・F・ケネディ大統領暗殺	108
1965年	ワッツ黒人暴動	110
1965年	ブラック・パンサー党結成	112
1966年	ボクサーのハリケンカーターによる殺人事件	114
1966年	テキサス・タワー乱射事件	116
1966年	ウェールズ・アバファン炭鉱事件	118
1969年	チャールズ・マニングのファミリーによる殺人	120
1969年	北アイルランド紛争	122



1970年	ケント州立大学射殺事件	124
1974年	チリのピノチエト独裁政権樹立	126
1975年	レナード・ペルティエによる警官殺害	128
1976年	クロディヌ・ロンジエ事件	130
1976年	カンボジアのポル・ポト政権樹立	132
1977年	ゲイリー・ギルモア死刑執行	134
1977年	北朝鮮による横田めぐみさん拉致	136
1978年	ユナボマー連続爆破事件	138
1978年	ガイアナ人民寺院での集団自殺	140
1979年	16歳少女のサンディエゴ銃乱射	142
1979年	マーガレット・サッチャー首相就任	144
1980年	ジョン・レノン射殺	146
1981年	ヨークシャー・リッパ事件	148
1981年	ブリクストン黒人暴動	150
1981年	パリ人肉食事件	152
1983年	大韓航空機撃墜事件	154

1986年	サト・パルラム事件	156
1987年	バド・ワイヤー財務官自殺	158
1988年	テレビ伝道師ジミースワガート買春暴露	160
1989年	ヒルスボローサッカー場暴動	162
1989年	ベルリンの壁崩壊	164
1990年	ネルソン・マンデラ釈放	166
1990年	ブッシュ大統領の新世界秩序	168
1991年	テキサスのリチャードソン高校自殺	170
1991年	ジェフリー・ダーマー逮捕	172
1992年	ロサンゼルス暴動	174
1993年	ブランチ・タヴィニアン教団自殺	176
1993年	トレイシー・ラティマー安楽死	178
1994年	ルワンダ大虐殺	180
1995年	地下鉄サリン事件	182
1998年	ゲイ青年マシュー・シエパード殺害	184
1998年	ジャック・ケヴオーキアンの自殺装置	186

1999年	アマドウ・ディアロ射殺	188
1999年	コロンバイン高校銃乱射	190
2001年	ドイツ出会い系ゲイ人肉食	192
2001年	大阪池田小学校無差別殺傷	194
2001年	アメリカ同時多発テロ	196
2005年	ロンドン自爆テロ	198
2005年	ハリケーン・カトリナ	200
2008年	チヨドゥスンによる女兒レイプ	202
2011年	東日本大震災	204
2013年	ボストン・マラソン爆発事件	206



1206年

ジンギス・カン、モンゴル帝国創設

蒼き狼と異名をとった蒙古の英雄は稲妻も雷も恐れさせ、
一晩で7人の女を妊娠させた

1206年にモンゴル帝国を興したのがチンギス・ハン（＝ジンギス・カン）だった。その勢力は彼の没後も拡がり、最盛期には東は高麗、西はヨーロッパ東部にまで及ぶ、人類史上最大の帝国となった。

日本においては、1189年に没したといわれる源義経が実はモンゴルに渡ってチンギス・ハンになったという歴史ロマン、あるいは井上靖の小説『蒼き狼』（1959～1960）などのおかげもあり、高潔なヒーロー視されることも多いが、ヨーロッパにおいては、アジアから武器を携えて攻め込んでくる得体の知れない侵略者のイメージが強い。

それを象徴するヒット曲がドイツ出身、その名もジンギスカンの「ジンギスカン」だった。1979年に発表、ユーロウィジョン・コンテストで第4位となったこの曲では「稲妻も雷も彼を止められない」「一晩で7人の子供を宿させた」と、その蛮勇が讃えられている。

6人編成のグループだったジンギスカンだが、一番目立っていたのがルイス・ヘンリック・ボンジホターだった。ジンギスカン役だった彼は特にヴォーカルや楽器を演奏するわけではなく、ステージ上のダンサーだったが、『フラッシュ・ゴードン』のミシ皇帝と中東の سلطان を合体させたようなファッション（日本人の抱くチンギス・ハンのイメージとはかなり異なる）には大きなインパクトがあった。彼は1993年にエイズで亡くなっている。

「ジンギスカン」は世界的なヒットを記録。時代も国境も越えて歌い継がれるスタンダードとなった。



「キラーズ」
「ジンギス・カン」収録

©アイアン・メイデン



「ジンギスカン」

©ジンギスカン

た。リリース当時には5カラットが日本語カバー、川崎麻世やレイザーラモンHG、レニングラード・カウボーイズらが歌ったヴァージョンを収めたコンピレーション『ジンギスカンだらけ』も編まれており、S M A P や B e r r y z 工房らアイドルが歌うことで、若い音楽・芸能ファンにも馴染みがある。

ジンギスカン自身も、続くシングル「めざせモスクワ」のB面に続編「ロッキング・サン」（原題は「Rocking Son Of Dschinghis Khan」）を収録、また再結成アルバム『7レーベン』（2007/日本未発売）にはチンギスの幼名である「テムジン」や「燃えるタイガ」「モンゴルにて」「カザフスタンの赤い太陽」（いずれもドイツ語タイトルを翻訳）、そして「ジンギスカン」リメイクが収録されている。暴虐の侵略王というイメージゆえか、チンギス・ハンはヘヴィ・メタル・バンドのお気に入りだ。アイアン・メイデン、元キッスのエース・フレリー、カヴァレラ・コンスビラシー、ランニング・ワイルドはいずれも「ジンギス・カン」という曲を発表しているし、イギリスのTVコメディ番組『ザ・コミック・ストリップ・プレゼンツ』から派生したバンド、バッド・ニュースも「ザ・ウォリアーズ・オブ・ジンギス・カン」を演奏している。なお、トッキー・ブレイドの前身バンドの名前もジンギス・カンだった。

ちなみに英語では「ジンギス・カン」と同時に「ゲンギス・カン」と発音されることがある。1990年にアイアン・メイデンがデビュー10周年を記念して、それまでの全シングルを再発した際に、ドラマーのニコ・マクブレインのトーク音源「リッスン・ウィズ・ニコ」がボーナス収録されたが、ここでも「ゲンギス」と発音されていたし、バッド・ニュースも「ザ・ウォリアーズ・オブ・ゲンギス・カン」と言っている。チンギスの孫にあたるモンゴル帝国第5代皇帝の名前を冠したアメリカのラップ・シ・メタル・バンド、フレライ・カンも存在する。彼らの唯一のアルバム『アナイレイション』（1987）のジャケットには角を生やして半月刀を持った神秘的な戦士が描かれている。

チンギス・ハンの時代、モンゴル民族はまだ文字を持たなかったため、その人物像を我々が知ることは不可能だ。ミュージシャン達は、彼について歌うことによって、その人生の謎を補完しようとしているのかも知れない。



▲玉座に鎮座するチンギス・ハン。

1480年

スペイン異端審問

まさかの時のスペイン宗教裁判。
我らの武器は驚愕・恐怖・冷酷・法皇への忠誠

イベリア半島の覇権をキリスト教徒とイスラム教徒が争っていた時代。1469年にカステリーア王国のイサベル王女とアラゴン王国のフェルディナンド王子が結婚したことは、キリスト教によるスペイン国土回復運動（レコンキスタ）を大きく前進させることになった。それぞれが即位、国王になったことで、両王国は統合。スペイン帝国が生まれる。

スペイン帝国がやったことは、キリスト教の徹底した国教化だった。それまでイスラム教、あるいはユダヤ教を信じていた人々も、カトリックに改宗することを強いられた。

ただ、表面的にはカトリックに改宗しながら密かにイスラム教を信じるモリスコ、同じくユダヤ教を信仰するコンヴェルソも多くいた。

そんなモリスコやコンヴェルソを裁き、排斥したのが、異端審問だった。1482年にスペイン大審問官に任命されたトマス・デ・トルケマダは、主にユダヤ人を対象に異端狩りを行った。彼らは財産を没収され、火あぶりや水責め、宙吊りなどの拷問にかけられた。トルケマダ就任後の10年間で2千人を処刑。2万人のユダヤ人がスペインから亡命したという。

1492年のレコンキスタ完成後、そして1498年のトルケマダ死後も、異端審問は続いた。自白させる手段は各審問官の裁量に任されていたため、さまざまな創意工夫を凝らした拷問が行われたが、そのイメージを増幅させたのが、エドガー・アラン・ポーの短編小説「陥穽と振子」（1843）だった。鋭い刃の付いた振り子や、迫りくる熱した金属製の壁などの大がかりな拷問装置は、我々

の知るスペイン異端審問のイメージを決定づけた。ただ、あまりにインパクトが強いゆえに、我々に誤った知識を植え付けたことも事実だった。

大きなインパクトをもたらしたのが、TVシリーズ『空飛ぶモンティ・パイソン』のコント「スペイン宗教裁判」（1970）だった。マikel・ペイリン演じるヒメネス枢機卿とその一味は「まさかの時のスペイン宗教裁判！」と叫びながら登場、拷問と称して枕で脇腹をバフバフするなど、世界史の暗い闇をギャグにしている。さらに映画『メル・ブルックス／珍説・世界史PART I』（1984）で異端審問がミュージカル化されたことで、『スペイン異端審問』と聞くだけで笑いのツボに入ってしまうようになった。

そのせいか、音楽の世界においてスペイン異端審問が真っ向から扱われることは少なく、多くの場合は比喩として用いられている。オランダのメタル・バンド、エレジーはそのもののスバリの「スパニッシュ・インクイジション」（1995）という曲を発表、「お前のスペイン異端審問でもたらされた暗い気持ちを克服する」と、恋愛とまで歌っている。

フィンランドのメタル・バンド、ナイトウィッシュは「陥穽と振子 The Pit And The Pendulum」をめぐった「ボエット・バンド・ザ・ペンデュラム」（2007）という14分の大曲を書き、「刃が彼の上に落ちる」「祭壇に括り付けられる」という歌詞もあるが、異端審問を題材としたものではない。

イギリスのドゥーム・メタル・バンド、エレクトリック・ウィザードは「トルケマダ71」（2007）を書いている。この歌詞は男女間のサドマゾに近い関係を異端審問の拷問に喩えたものだ。タイトルはイタリアのフュメツティ（エロゲロ漫画）『トルケマダ70』の続編的意味合いがあり、また同時にソングライターのジャズ・オボーンが1971年生まれだということも関係しているのだという。

イギリスのジャズ・ロック・グループ、コロシウムIIの『ウォー・ダンス』（1977）には「インクイジション」というインストゥルメンタル曲があるが、ゲイリー・ムーアのスパニッシュ・テイストのギターがあることから「異端審問」という題名が付けられた。このように婉曲的に描かれることが多いスペイン異端審問だが、そろそろ気合いの入ったコンセプト・アルバムも聴きたいものである。



▲異端審問所の情景。右中央には裸にされ、火刑に処される人物が描かれている。

写真出典：『改訂新版図説スペインの歴史』成川洋／河出書房新社／1999年より引用



「今日の魔女信仰」
「トルケマダ71」収録

◎エレクトリック・ウィザード



「ロスト」
「スパニッシュ・インクイジション」収録

◎エレジー

1644年

イギリス／アメリカの魔女狩り

女はサバトに馬を駆った。そして悪魔と情交した。
奴は魔女なのだ。我は魔女狩り将軍

永井豪の漫画『デビルマン』で飛鳥了が語る魔女狩りの描写は、鮮烈な衝撃をもたらした。彼曰く、16世紀のヨーロッパでは900万人の無実の人間が、針で体を突つかれたり、手足をしばって水の中に投げ込まれるなどして、惨殺されたという。ある日突然、いわれない嫌疑をかけられて拷問されるという理不尽な恐怖に、少年少女たちは暗闇の中を震撼し、眠れない夜を過ごした。近年の研究では、実際に魔女裁判にかけられ、生命を失ったのは4万人程度といわれているが、それでも多くの一般市民が前日までは親しかった隣人たちに狩られ、爪を剥がれ、皮膚を削がれ、火あぶりになったことは事実だ。

中世末期から近代において魔女狩りがヨーロッパ全土に広まった背景としては、キリスト教会による異端審問が民間レベルまで普及して、民俗信仰と結びついたことが挙げられるが、一説によると、ライ麦、ライ麦角菌に汚染されたことにより、幻覚症状が日常化したことが理由ともいわれる。麦角菌の成分であるリゼルゲ酸を人工的に合成したのが、LSDである。村の女たちは全裸になってホウキに跨り、それを見た村人は彼女たちが空を飛んでいると思った。狩る側も狩られる側もトリップした状態で、狂気の殺戮が行われたのだ。

月の出ない夜、松明を手に歩む自警団のイメージは、ラッシュの「魔女狩り」(1981)で歌われている。この曲の歌詞は、現代における人種・宗教差別などに基づくヘイト・クライムも思わせるものだ。



『デス・ペナルティ』

©ウィッチファインダー・ジェネラル



『ムーヴィング・ピクチャーズ』
「魔女狩り」収録

©ラッシュ

ヨーロッパの魔女狩りで悪名を轟かせたのが、1644年から1646年にかけてイギリスで300人の「魔女」を処刑したマシュー・ホプキンスだ。清教徒革命の混迷する社会情勢に乗じて、彼は「ウィッチファインダー・ジェネラル(魔女狩り将軍)」を名乗り、イングランドを渡り歩いて魔女狩りを請け負っていた。処刑にあつての手数料を受け取るのみならず、彼は魔女嫌疑をかけられないために地元の有力者たちから便宜を図られ、女体接待も受けるなどした。

「魔女狩り将軍」はイギリスにおいて文化的アイコンとなり、ボートチップスのTVCMに彼をイメージしたキャラクターが登場するなど、お茶の間にも浸透している。1968年にはヴィンセント・プライスがホプキンスを演じた映画『ウィッチファインダー・ジェネラル』も制作された(プライスはマイケル・ジャクソン「スリラー」のナレーションでもおなじみ。ディープ・パープルは「ヴィンセント・プライス」(2013)という曲を発表している)。

1970年代後半にはイギリスから、その名もウィッチファインダー・ジェネラルというバンドがデビューしており、アルバム『デス・ペナルティ』(1982)のジャケットでは巨乳を露わにした血まみれの裸女(ヌード・モデルのジョアン・レイサム)が墓場で拷問されている。この撮影は墓場を管理する教会の許可を得ず、ゲリラ的に撮影されたそうで、付近住民からクレームが上がったという。

ドゥーム・メタル・バンド、カテドラルの「ホプキンス」もまた、彼を題材にしている。この曲のビデオには映画『ウィッチファインダー・ジェネラル』のシーンも使われているが、曲の後半のサンプリングは、同じく魔女狩りを題材にした西ドイツ映画『残酷！女刑罰史』(1970)からとったものだ。サクソンも「ウィッチファインダー・ジェネラル」(2004)を書くなど、魔女狩り将軍はメタルにおいて重要なキャラクターだ。

なお、アメリカのマサチューセッツ州セイラムで1692年に行われた魔女裁判の原因にも、麦角菌による幻覚があつたという説が存在する。ロブ・ゾンビは「アメリカン・ウィッチ」(2006)でこの事件を取り上げ、絞首刑となった20人の魔女に祈りを捧げた。彼はまた、自らが監督する映画『ロード・オブ・セイラム』(2013)でもセイラム魔女裁判を重要なキーワードとして用いている。



▲マシュー・ホプキンスによる魔女発見のための手引書である『魔女の暴露』(1647年)。

写真出典:『ビジュアル・ヒストリーアメリカ植民地時代から覇権国家の未来まで』アレン・ワインスタイン、デイヴィッド・ルーベル著／越智道雄訳／東洋書林／2001年より引用

1845年

アイルランド大飢饉

神がジャガイモをもたらした、イギリス人が飢饉をもたらした。
アイルランドは今も復興中

欧米人はジャガイモを食べる。日本人が米を食べる以上に、とにかくジャガイモが食卓に並ぶ。フライドポテトやマッシュドポテト、スープ、シチュー、コロッケなど、ヨーロッパや北米において、ジャガイモは主食だといえる。

実はジャガイモの原産地は南米アンデス山脈の高地であり、ヨーロッパでも北米でもないのだが、もはや彼らの食生活に欠かせない存在なのだ。ベルギーではフレンチ・フライ（ベルギー人は「フランシス・フライ」と呼ぶ）を世界遺産にしようという動きもあるほどだ。

そのジャガイモの不作のせいで、国家レベルでの危機が訪れたのが、1845年から1849年にかけてのアイルランド大飢饉だ。当時アイルランドの人口は約800万人だったが、ジャガイモ疫病による枯死で100万人が餓死。それに加えてジャガイモ輸出産業が壊滅したこともあり、100万人がアメリカなど国外に移住することになった。飢饉が終わった後も人口は激減していき、1910年代には440万人にまで減少。独自のケルト文化やゲル語もまた、失われていくことになった。ジャガイモの不作が国家の存亡に関わる大事となったのは、歴史的にも珍しいことだ。

この歴史上の重要事件を、アイルランドのミュージシャン達はさまざまな視点から描写してきた。世界規模の音楽市場で初めて成功を収めたロック・グループであるシン・リジィは、アルバム『サギ師ジョニー』（1976）収録の「フルズ・ゴールド」で「大飢饉と黒死病」から逃れた人々が新しい人生と希望を求めて新天地アメリカに向かうが、それは容易に手に入れることの出来ない、愚か

者の黄金」に過ぎないと歌っている。

1845年当時、アイルランドはイギリスの植民地だったが、これほどの大打撃を被ったのは、イギリス政府による実質的なジェノサイド（大量虐殺）だったとする説もある。アイルランドでは1740年から1741年にかけても冷害のせいで飢饉が起こっているが、この時は作物の輸出をストップ、国内向けの食料を確保している。だが、1845年の大飢饉ではそれが許されず、アイルランドは輸出を続けなければならなかった。19世紀アイルランドのナショナリズム活動家ジョン・ミッチェルは、「神がジャガイモをもたらした、イギリス人が飢饉をもたらした」という言葉を残している。

ダブリン郊外で生まれたシニード・オコナーが『ユヴァーサル・マザー』（1994）に収録した「ファミン」は、そんな視点から描かれた曲だ。ここでシニードは歌うのではなく「飢饉なんてものはなかった」と語りかけてくる。「アイルランド人はジャガイモしか食べるところを許されなかった。他の食物、肉・魚・野菜はすべてイギリスに輸出されて、アイルランド人は飢えるしかなかった」というメッセージは、時代を超えて切実に迫ってくる。

ティペラリー出身のヴォーカリスト、ブライアン・ヤップ・バリーを中心とするハードコア／メタル・バンド、ワン・ミニット・サイレンスは、アルバム『バイ・ナウ…セイヴド・レイター』（2000）で、「1845」という、直球を放り込むタイトルの曲を収録している。「自分はアイルランド人である前に地球人。地球の抱える問題について歌っていきたい」と語るヤップは、この歌詞では一般的な戦争や暴力、憎しみなどを歌っているが、あえてアイルランドの歴史における重要な年号を曲タイトルにすることで、この事件を世界中の人々に知ってもらいたいと語っていた。それはこの曲によってある程度、功を奏したといえるだろう。

ジャガイモ大飢饉は、アイルランドの歴史に大きな傷跡を残すことになった。20世紀の政情不安のせいもあって、人口は増えることがなく、2011年現在の総人口は約450万人。飢饉前の人口に戻る日は、はたして来るのだろうか。170年という月日が経ったが、アイルランド復興は未だに成し遂げられていない。



資料8 飢えたアイルランド移民の現代の像 ダブリン

▲現在もアイルランド人は飢饉を忘れている。ダブリンの広場にはアイルランド移民たちを象った銅像が立ち並ぶ。

写真出典：『イギリスの歴史【帝国の衝撃】』ミカエル・ライリー、ジェイミー・バイロン、クリストファー・カルビン著／前川一郎訳／明石書店／2012年より引用



「バイ・ナウ…セイヴド・レイター」
「1845」収録

◎ワン・ミニット・サイレンス



「サギ師ジョニー」
「フルズ・ゴールド」収録

◎シン・リジィ

1914年

第一次世界大戦勃発

西部戦線異状なし。
塹壕の中で、兵士たちはシエルシヨック(PTSD)に蝕まれていった

第一次世界大戦はその名の通り、世界の多くの国が参戦した戦争だった。ヨーロッパを中心に、中東やアフリカにも戦線は拡大。アメリカや日本も直接的に関わり、死者数は1,500万人という膨大なものとなった。清で勃発した太平天国の乱(1850~1864)の2千万人には及ばないものの、凄まじい数字だ。

戦車、飛行機、機関銃などの新兵器は、より「効率的」に人間を殺傷することを可能にした。射程距離と範囲の大幅な向上により、フランスやドイツでは塹壕戦が戦局を左右するようになる。兵士たちは塹壕の中で死と直面し戦後、シエルシヨック＝心的外傷後ストレス障害(PTSD)が広く知られるようになった。

第一次世界大戦は、文学作品で戦争の哀しみや恐怖が描写されるようになった転換点でもあった。レマルクの小説『西部戦線異状なし』(1929)は、「兵卒の死など、異状なし」の範疇だという虚しさをタイトルにしている。

ダルトン・トランボの『ジョーは戦場へ行った』(1939)もまた、第二次大戦の悲劇を描いた小説だ。主人公が戦争で手足と視力・聴力・話す力を失うこの物語は1971年、トランボ自身の監督で映画化されたが、本作からインスピレーションを得たのがメトリカの「ワン」(1988)だった。この歌詞はほぼそのまま本作をなぞったもので、ビデオでは映画からのシーンも使われている。なお、『ジョーは戦場へ行った』に先駆けて、江戸川乱歩が短編『芋虫』(1929)で戦争で



『ヴェルダン1916』

©ニューロシスInc.



『メタル・ジャスティス』
「ワン」収録

©メトリカ

手足を失った軍人を主人公にしているし、山上たつひこの漫画『光る風』(1970)でも四肢欠損の傷痍軍人が器用に女性を犯そうとする。

スタンリー・キューブリック監督の比較的初期作にあたる映画『突撃』(1957)も、フランスの塹壕戦をストーリーの軸にしている。フランス軍のダラ幹(ダラけた幹部)達のとばっちり兵士たちが死んでいくが、自軍の陣営にある酒場でドイツ人の女捕虜をステージに上げて「なんか歌え」と歌わせる。彼女がドイツ民謡「Der Treue Husar」(忠実なる軽騎兵)を歌い出すと、野次を飛ばす男たちもいつしか泣きだし、全員でメロディを歌うのだった。この女捕虜を演じたクリスチャン・ハーランをキューブリックが見初めて、わざわざ離婚してまで結婚したのは有名な話だ。戦いに疲れた兵士たちが歌を口ずさむエンディングは、『フル・メタル・ジャケット』(1987)で再現された(そちらでは「ミッキーマウス・マーチ」が歌われる)。

1916年のヴェルダンの戦いではフランスとドイツ両陣営あわせて70万人が死亡、同年のソムの戦いでは死者数は100万人を上回った。特に2月21日から12月18日にかけて行われたヴェルダンの戦いでは狭い地域で戦闘が長期化、戦場のあちこちで死体が腐臭を放ち、春先の雨で足下が泥沼化して、両軍ともに「地獄」と形容する惨状だった。コロンビアのデス・メタル・バンド、ニューロシスInc.の『ヴェルダン1916』(1995)、そしてユージョーランドのドローン・メタル・バンド、ブラック・ボンド・エンジェルの『ヴェルダン』(2009)という2枚の作品は、この地獄絵図を音楽で表現しようとする試みだった。

なお1902年に日英同盟を締結していたため、イギリス・フランス・アメリカ・ロシアの連合軍側につくことになった大日本帝国は、ドイツが租借していた中国の山東省に進軍、青島を陥落する。さらにヨーロッパ戦線にも派兵しており、靖国神社では第二次大戦で亡くなった4,850人の死者が祀られている。

日本とドイツは敵同士となり、数多くのドイツ兵が捕虜として日本に連れてこられた。1918年、徳島の板東俘虜収容所で彼らが演奏したのが、日本での『第9交響曲』初演だ。彼らはまた、地元住民にビールやバウムクーヘンを紹介し、子供たちにサッカーを教えるなどした。そんな心温まる交流が契機となつたのかは不明だが、次の大戦では、日本とドイツはタッグを組むことになる。



▲第一次世界大戦の主要な戦場のひとつとなったヴェルダンの塹壕。

写真出典:『図説フランスの歴史』佐々木真／河出書房新社／2011年より引用